
第6章 流域別の方針

6-1 流域計画の基本的考え方

6-2 流域別の方針

- 1) 滑川流域
- 2) 極楽寺川流域
- 3) 神戸川流域
- 4) 柏尾川左岸下流域
- 5) 柏尾川左岸上流域
- 6) 柏尾川右岸流域

第6章

流域別の方針

6-1 流域計画の基本的考え方

(1) 流域設定の意義と流域区分

- 本市は、丘陵の広がる変化に富んだ地形を有しており、大小の谷戸がつくりだす「流域」を基盤として、個性ある複数の地域が形成されています。この流域は、大地の水循環の基本となる空間であり、地域の自然生態系や景観をつくり、市民の日常生活圏を緩やかに形づくっています。
- めざす緑を市民との連携で実現していくためには、市域全体での計画の方向性や取組に加え、生活と結びついたより身近な範囲での方針や取組を示していく必要があります。
- この場合、緑の持つ歴史風土保存、防災、生物多様性保全、景観形成等の諸機能が有効に発揮されるよう地域の土地利用や自然環境に合わせて緑を系統的に保全・整備・創出し、地域の緑のネットワーク形成を図っていく必要があります。
- このような観点から、ここでは、自然環境の基盤をなす「流域」を地域の緑の環境づくりの基本単位として捉え、流域の視点を大切にされた取組を推進し、市域の緑のネットワーク形成や緑の質の向上につなげていきます。
- 流域を構成する、地域の個性の維持に努めます。
- 流域の区分については、水系の広がりや位置、土地利用、上位・関連計画での地域区分等を考慮し、次の6つの流域を設定しています。



図 6-1 流域区分図

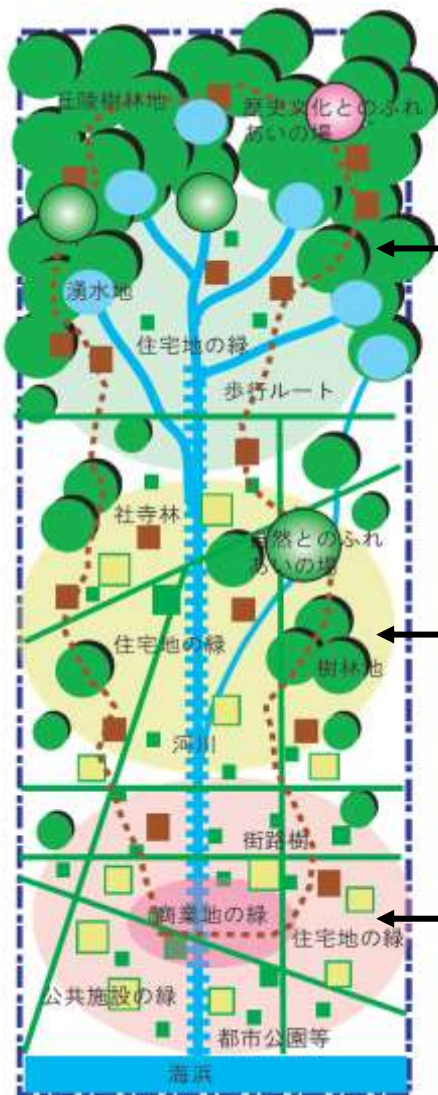
資料: 東京大学大学院都市工学専攻 環境デザイン研究室

(2)流域における緑の環境づくりの考え方

緑の種類や分布状況は流域毎に異なりますが、上流の丘陵樹林地-水系-下流域の海浜又は主要河川で構成される骨格をなす緑を軸に、次のような考え方に沿って、流域内の人と人、人と緑のつながりがより感じられる緑の環境形成を目指します。

(流域全体)

- 歴史文化資源と結びついた緑を大切に保全し、継承します。
- 防災・環境負荷低減につながる緑の維持管理を行います。
- 上流域～下流域の緑のつながりが意識されるよう、自然環境の骨格をなす丘陵樹林地-河川-海浜の緑の連続性を確保します。
- 山と海をつなぐ水系の自然環境軸・景観軸・レクリエーション軸としての機能を高めます。
- 主な都市公園や歴史文化資源を、流域の交流活動拠点として活用するとともに、流域住民の交流拡大に向けて、これらをつなぐ歩行ルートを設けます。
- 緑の環境づくりに向けた、流域住民との多面的な連携事業を進めます。



(上流域)

- 緑の骨格をつくる緑地を一体的に保全し、適切な維持管理を行って防災・生物多様性保全・環境負荷低減等の機能を高めます。
- 丘陵の持つ水源域としての機能を維持するとともに、河川上流域の水系をつくる湧水地一帯の自然環境を保全します。
- ハイキング等、自然とのふれあい活動が楽しめる場としての環境を整えます。
- 市街地では、自然の緑と住宅地の緑を連結させ、防災・生物多様性保全・景観形成等の諸機能を発揮する緑のネットワーク形成を図ります。

(中流域)

- 市街地内の樹林地を、流域の景観や生態系ネットワークをつくる緑として保全し、上流域の緑とのつながりを確保します。
- 利用の促進や生活の質の向上につながる公園づくりを進めます。
- 市街地の緑を増やし、周囲の自然の緑とのつながりが感じられる緑豊かな居住環境の維持・創出を誘導します。

(下流域)

- 市街地に残る小規模樹林地や農地を保全します。
- 流域の特性に合わせた、まちの魅力を高める緑、流域の個性につながる緑などを保全・創出します。
- 公共施設・商業施設・工場・住宅の緑化の緑化を通じて市街地の緑の環境を広げます。

6-2 流域別の方針

1) 滑川流域

(1) 流域の特性

- 三方を丘陵に囲まれ、南側の海に向かって開けた低地を持つ地形構造で、複雑に入り組む谷戸地形が発達しています。
- 古都鎌倉の中心部を構成する地域であり、史跡や社寺等の歴史文化資源が凝集し、丘陵の大部分は歴史的風土保存区域の指定区域となっています。
- 丘陵・谷戸の一带は、土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域の指定区域となっており、過去には数多くのがけ崩れが発生しています。また、低地面はほぼ全域が津波浸水予想区域に含まれています。
- 鶴岡八幡宮・鎌倉大仏・鎌倉海浜公園をはじめ数多くの観光資源が存在する鎌倉観光の中心地で、年間約1,900万人が訪れています。



滑川流域



鎌倉駅周辺市街地

(2) 緑の現状

- 滑川沿いに形成された低地面の市街地を取り巻く形で、古都の歴史的風土を構成する緑地が広がっています。
- 丘陵樹林地は落葉広葉樹の二次林を主体とする植生で、希少種を含む多くの動植物が生息生育する豊かな自然環境が形成されていますが、近年は管理不足の影響もあり、生物多様性保全の機能の低下が見られます。
- 丘陵の谷戸地形がつくり出す小流域の水流が集まって滑川に注ぎ、山と海をつなぐ滑川水系の自然環境が形成されています。
- 丘陵谷戸には、周囲の自然と調和した趣のある住宅の緑が維持されている他、鎌倉駅周辺一帯の市街地では、歴史文化のシンボル景観軸である段葛の緑をはじめとして、社寺や公共施設の緑、美しい庭や生け垣を持つ低層住宅地の広がりが見られ、緑の多いまち並みが形成されています。
また、市街地から丘陵の緑が間近に見られる環境も、緑の豊かさを感じさせる要因となっています。
- 多くの社寺をはじめ、史跡の永福寺跡や、美しい庭園を備えた旧華頂宮邸・鎌倉文学館・旧川喜多邸など、鎌倉の歴史文化とふれあえる緑の資源が存在します。
- レクリエーション活動の場として、多くの利用者が訪れる鎌倉海浜公園、源氏山公園、浄明寺緑地などの都市公園や天園ハイキングコースなどが整備されています。

周囲の自然調和した谷戸の低層住宅の緑



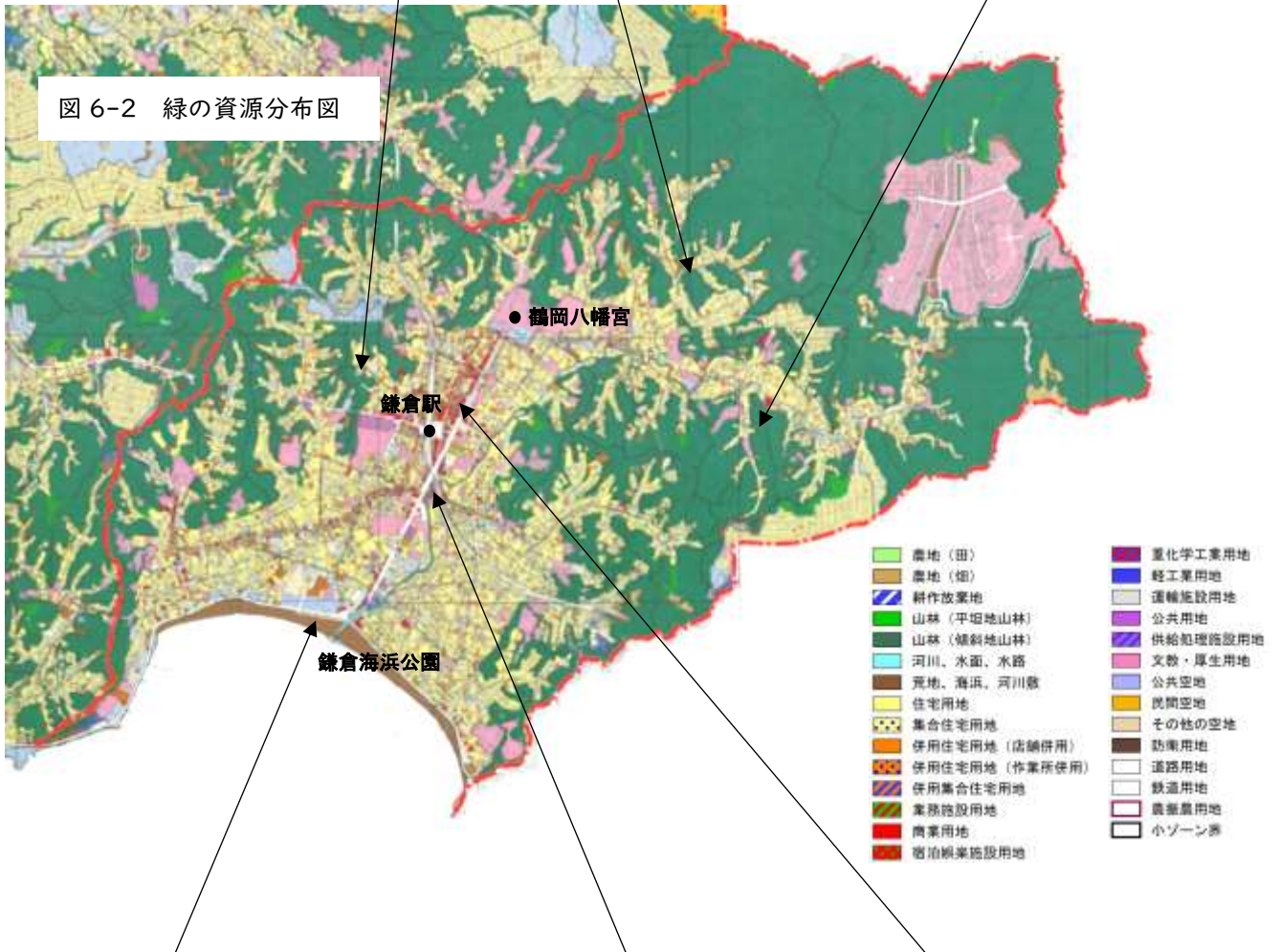
史跡の永福寺跡



歴史的風土を構成する緑地



図 6-2 緑の資源分布図



海浜レクリエーションの拠点である鎌倉海浜公園



自然生態系の骨格をなす滑川



シンボル景観軸である段葛

(2)方針と取組

■方針

古都の歴史的風土と山-川-海をつなぐ自然環境が、流域全体で感じられる緑の環境をつくります。

■計画推進に向けた取組

項目	方針
歴史文化を守る緑	<ul style="list-style-type: none"> ○古都の歴史的風土を構成する緑地を一体的に保全します。 ○史跡指定地の樹林地、社寺境内地の樹林・庭園・樹木、段葛・やぐら・切通等の歴史文化資源と結びついた緑を適切に保全します。 ○歴史的風土形成上の重要な要素である社寺林を保全します。 ○永福寺跡、御谷、鎌倉文学館、旧華頂宮邸、旧川喜多邸別邸、鎌倉国宝館、吉屋信子記念館等の庭園や緑を、鎌倉の歴史文化を学び・ふれあい・楽しむことのできる場として保全・活用します。
安全安心をもたらす緑	<ul style="list-style-type: none"> ○土砂災害警戒区域等の指定区域やその周辺部の斜面樹林地について、防災面に配慮した適正管理を行うとともに、必要に応じて危険木の除去、間伐等の防災対策を推進します。 ○津波発生時の避難に対応するため、津波浸水予想区域外周部の高台に緊急避難空地となる緑・オープンスペースを計画的に確保するとともに、避難空地に至るルートを設定します。
環境負荷を和らげる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷低減に大きな役割を果たしている緑地を保全し、二酸化炭素の固定・吸収や気温調節機能の向上につながる維持管理を行います。
生き物を育む緑	<ul style="list-style-type: none"> ○流域生態系ネットワークの骨格を形成する、丘陵樹林地、滑川水系の河川、材木座・由比ヶ浜の海浜の自然環境を保全します。 ○丘陵樹林地全体について、生物多様性保全に配慮した管理を行うとともに、希少種等が生息生育する場所の自然環境の保全に努めます。 ○河川については、滑川水系の支流をなす平子川、二階堂川、佐助川等の水流を生み出す谷戸の湧水域や、ため池等の水辺地の自然環境を保全します。 ○滑川沿いの樹林地の保全や河畔木の植栽等により、生物の生息生育地としての河川の機能を高めます。 ○丘陵樹林地や谷戸の水辺地、河川の一部を、市民の身近な自然観察の場として活用します。
交流とふれあいを広げる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○源氏山公園、浄明寺緑地に加え、一部の市有緑地等を活用して、眺望や自然とのふれあいが楽しめる場の充実を図ります。 ○海浜レクリエーション活動拠点である、鎌倉海浜公園の機能の充実を図ります。 ○既設のハイキングコースや関東ふれあいの道などに加えて、流域内の山歩き、まち歩き、自然探索、歴史探索などが楽しめる歩行ルートのネットワーク形成を図ります。
美しい景観をつくる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地背後の山並み景観と前面に広がる海浜の自然景観を構成する緑を保全します。 ○山と海をつなぐ滑川の水景の連続性を確保するとともに、下流域の県道と滑川に囲まれた市街地の区域の緑化を推進し、水辺景観ゾーンの形成を図ります。 ○歴史文化のシンボル景観である、海浜から鶴岡八幡宮に続く段葛の緑を保全します。 ○主要道路である県道21号・311号の街路樹整備や沿道の緑化を誘導し、市街地の緑の連続性を高めます。 ○若宮大路周辺の商業地では、景観地区の内容に沿って、段葛の桜並木を軸とした修景効果の高い、まち並みの緑を創出します。 ○江ノ島電鉄の車窓景観として眺められる、沿線の緑の保全と緑化を誘導します。

項目	方針
暮らしを支え豊かにする緑	<p>○市街地内の重要な景観資源でもある社寺林や公共施設の緑を保全します。</p> <p>○谷戸部の住宅地では、周囲の自然景観に溶け込んだ古都の佇まいが感じられる住宅の緑を、流域を特色づける緑の資源として保全します。</p> <p>○住宅の緑の維持・創出を誘導し、美しい植栽樹木や生け垣が連続する居住環境の維持・育成を図ります。</p>

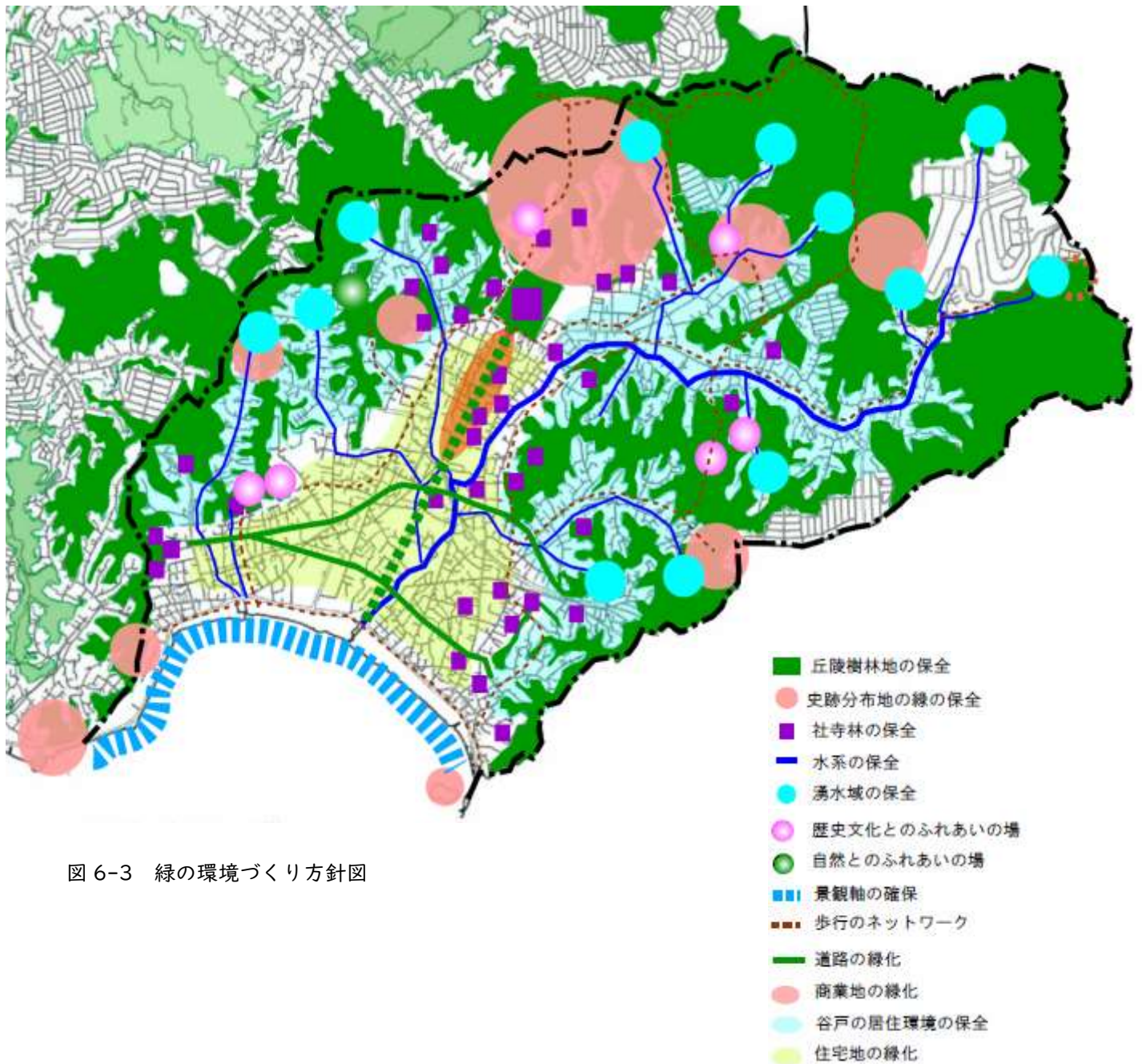


図 6-3 緑の環境づくり方針図

(3) 主な取組の区分

区分	項目
行政が主体となる取組	<ul style="list-style-type: none">○歴史的風土保存区域・特別保存地区の指定、継続による緑地の保全○史跡等分布地の緑の保全○道路・公共施設の緑化、河川環境の整備○歴史的風土保存計画に基づく樹林管理、施設設置等○歴史的風致維持向上計画に基づく歴史文化資源の保全・活用
市民等との連携による取組	<ul style="list-style-type: none">○災害の発生防止や生物多様性保全に配慮した樹林地の維持管理○谷戸の湧水域等の自然環境の保全活動○公園、街路樹、河川の維持管理○谷戸の邸宅地等の緑の保全・維持管理○まち並みの緑を豊かにする商業施設や住宅の緑化、植栽地の維持・管理○歩行ネットワークのルート設定

2) 極楽寺川流域

(1)流域の特性

- 長谷・極楽寺-鎌倉山-広町の丘陵に囲まれた流域で、土地利用上は、歴史的風土保存区域の指定を受ける極楽寺川沿いの緑地・谷戸の低層住宅地と、丘陵地に開発された風致地区の指定を受ける大規模低層住宅地、七里ガ浜海岸で構成されています。
- 大規模住宅地の後背地には、高級住宅地として開発された鎌倉山の閑静な住宅地が見られます。
- 極楽寺川沿いは、一帯が土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域となっている他、海岸沿いの低地面が津波浸水予想区域に含まれています。
- 七里ガ浜海岸は、マリンスポーツの拠点として年間を通して多くの人を訪れる場所であり、国道沿いには商業施設が立地しています。



鎌倉山から海岸線にかけての一帯



七里ガ浜の丘陵住宅地

(2)緑の現状

- 長谷・極楽寺-鎌倉山-広町の丘陵に残る緑地が、大規模住宅を取り巻く形で残っています。
- 歴史的風土特別保存地区には、史跡である稲村ガ崎や大仏切通等の歴史文化資源の他、長谷寺・高德院大仏・極楽寺等の社寺、優れた庭園を持つ扇湖山荘等が分布しています。
- 極楽寺川や行合川の谷戸沿いは宅地化が進み自然環境が大きく変化していますが、極楽寺川沿いには斜面樹林地が残されている場所も見られ、生態系の軸としての自然環境が維持されています。
- 海岸線沿いは断続的に斜面樹林地が残されており、沿道の緑が認識される状況が見られます。また、江ノ島電鉄の車窓からは、斜面樹林地や沿線住宅の緑が間近に眺められます。
- 大規模住宅地には複数の街区公園が整備されている他、緑の景観軸をなす遊歩道が設けられており、住宅の植栽地の緑も加わって、風致地区にふさわしい緑のまち並みが形成されています。また、後背地に広がる鎌倉広町緑地や鎌倉山の緑の存在も、良好な居住環境を形成する大きな要素となっています。

住宅地の公園（正福寺公園）



緑に包まれた極楽寺駅



歴史的風土特別保存地区の緑地



図 6-4 緑の資源分布図



住宅地の緑のまち並み



住宅地の緑の景観軸をなす遊歩道



稲村ヶ崎の自然景観

(2)方針と取組

■方針

良好な居住環境を形成する住宅地の緑を維持・育成するとともに、暮らしの中に周囲の歴史的風土や丘陵の自然との結びつきが感じられる流域環境の形成を目指します。

■計画推進に向けた取組

項目	方針
歴史文化を守る緑	<ul style="list-style-type: none"> ○長谷・極楽寺地区の歴史的風土保存区域を構成する緑地を保全します。 ○切通し、やぐらなどの史跡分布地の緑を保存・管理します。
安全安心をもたらす緑	<ul style="list-style-type: none"> ○過去に倒木やがけ崩れが数多く発生している極楽寺川沿いを中心に、土砂災害警戒区域等の指定を受ける緑地に対して防災面に配慮した適正管理を行うとともに、必要に応じて危険木の除去、間伐等の防災対策を推進します。 ○津波発生時の津波浸水予想区域に含まれる低地面の周辺部に、緊急避難空地となる緑・オープンスペースを確保します。
環境負荷を和らげる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○丘陵の緑を保全するとともに、市街地の緑との連続性を高めます。 ○二酸化炭素の固定・吸収や気温調節機能の向上につながる緑の維持管理を行います。
生き物を育む緑	<ul style="list-style-type: none"> ○丘陵住宅地を取り巻く長谷・極楽寺の丘陵樹林地-鎌倉山住宅地の緑-鎌倉広町緑地の緑の繋がりを確保し、流域生態系の骨格をなす自然環境の機能を維持します。 ○丘陵樹林地全体について、生物多様性保全に配慮した管理を行うとともに、希少種等が生息生育する場所の自然環境の保全に努めます。 ○七里が浜沿いに残る海岸線と後背地の樹林地や草地を、海岸線の動植物の生息生育地として保全します。 ○極楽寺川、音無川、行合川沿いの緑の連続性を高めて生態系の軸としての機能を維持するとともに、その水源域の緑を保全します。
交流とふれあいを広げる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○丘陵住宅地の身近な公園について、住民の年齢構成の変化などに合わせた機能の見直しなどを検討し、利用の向上を図ります。 ○丘陵住宅地と鎌倉広町緑地を結ぶ歩行ルートの設定などにより、鎌倉広町緑地をより積極的に活用できる環境を整えます。 ○丘陵住宅地の遊歩道を中心に、鎌倉広町緑地・鎌倉山の住宅地・極楽寺川沿い、七里が浜の海岸線をつなぐ歩行ネットワークの形成を図ります。
美しい景観をつくる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉の歴史を伝える重要な景観資源であり、海浜景観軸のランドマークでもある稲村ガ崎の自然景観を保全します。 ○国道134号沿いの沿い斜面樹林の保全と緑化の推進により、鎌倉風致地区の主要要素である海岸線の風致の向上を図ります。 ○重要な緑の資源である。鎌倉山の桜並木を保全・管理します。
暮らしを支え豊かにする緑	<ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉山住宅地の閑静な居住環境を形成する緑を保全します。 ○丘陵住宅地については、生育した住宅の植栽地の適切な育成管理を誘導し、緑のまち並みが連続する居住環境の維持を図ります。



図 6-5 緑の環境づくり方針図

- | | |
|---------------------|------------------|
| ■ 歴史的風土保存区域の丘陵樹林地の保 | ● 都市公園の整備、施設の改善等 |
| ● 史跡分布地の緑の保全 | - - 歩行のネットワーク |
| ■ 社寺林の保全 | ■ 道路緑化 |
| ■ 生態系の骨格をなす丘陵樹林地の保全 | ■ 公共施設の緑化 |
| ● 湧水圏の自然環境の保全 | ■ 住宅地の緑化 |
| ■ 河川環境の改善・プロムナードの整備 | ■ 工業地の緑化 |
| ■ 市街地内の樹林地の保全 | ■ 商業地の緑化 |
| ● 自然とのふれあいの場 | |

(3) 主な取組の区分

区分	項目
行政が主体となる取組	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的風土保存区域・特別保存地区の指定、継続による緑地の保全 ○史跡等分布地の緑の保全 ○風致地区の指定継続による良好な居住環境の維持 ○道路・公共施設の緑化、河川環境の整備 ○歴史的風土保存計画に基づく樹林管理、施設設置等
市民等との連携による取組	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の発生防止や生物多様性保全に配慮した樹林地の維持管理 ○身近な公園や遊歩道の緑の維持管理 ○住宅植栽地の緑の育成・管理 ○歩行ネットワークのルート設定 ○市街地内樹林の保全 ○国道 134 号沿いの緑の保全・回復

3) 神戸川流域

(1)流域の特性

- 広町-鎌倉山-笛田-手広のなだらかな丘陵に囲まれた、神戸川・二又川水系の流域です。
- 海岸線沿いから丘陵に開発された住宅地まで、市街地が連担していますが、漁港・別荘地の面影を残す住宅地・大規模な低層住宅地など、変化のあるまち並みが見られます。
- 流域内の斜面地では、がけ崩れ発生地が見られるほか、漁港沿いの低地面は津波浸水予想区域に含まれています。
- 漁港の後背地には複数の社寺が立地する地区があり、港町の歴史文化を伝える風景が伝統的行事とともに継承されています。
- 丘陵の大規模住宅地一帯は風致地区が指定されています。



腰越海浜と小動岬



西鎌倉・腰越の丘陵住宅地

(2)緑の現況

- 手広・笛田-鎌倉山-鎌倉広町緑地に続く緑地が、市街地を取り巻く形でのびています。
- 流域の中心部を貫く神戸川・二又川が、丘陵樹林地と海をつなぐ自然環境の軸となっています。
- 市街地が連続する中で、河川沿いには市街地を緩やかに分節する斜面樹林地や公園が分布しており、これらの緑が市街地景観に変化を与え、延焼防止や防風・防潮の機能を果たしています。
- 流域のレクリエーション活動の場として、豊かな自然環境を残す鎌倉広町緑地、夫婦池公園が整備されている他、市街地内には多くの街区公園や青少年広場が設けられています。
- 市街地内の複数個所に生産緑地が分布しています。
- 漁港に接する小動岬は重要な景観資源であると同時に、小動神社の樹林地が海岸性植物の生育地、野鳥等の採餌・休息の場となっています。
- 海岸線の高台に位置する社寺境内地には、流域の景観資源であり、港町の歴史文化を伝える社寺林の緑が見られます。

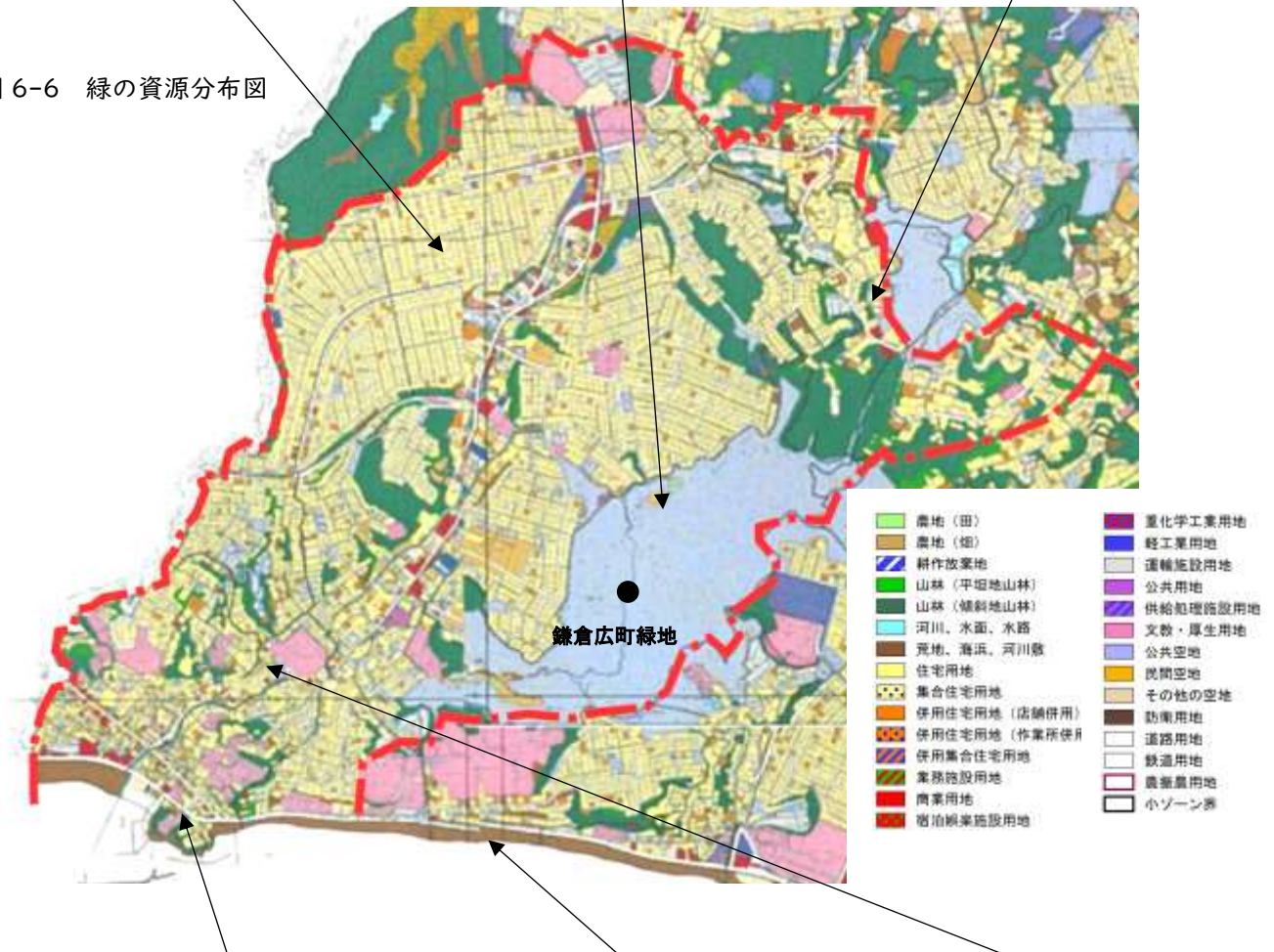
西鎌倉の住宅地

レクリエーション活動拠点でもある鎌倉広町緑地

鎌倉山の住宅地



図 6-6 緑の資源分布図



小動岬の神社林



砂浜が続く海辺



神戸川の河川環境

(2)方針と取組

■方針

コンパクトな流域の中に、山-川-海を結ぶ生態系の緑が確保され、暮らしの中に海や鎌倉広町緑地の自然とのつながりが感じられる流域環境の形成を目指します。

■計画推進に向けた取組

項目	方針
歴史文化を守る緑	○腰越漁港の後背地に立地する社寺の緑を、漁港の歴史を伝える地域の伝統的な祭事と結びつけた緑として保全します。
安全安心をもたらす緑	○住宅等に接する斜面樹林地に対して、防災面に配慮した適正管理を行うとともに、必要に応じて危険木の除去、間伐等の防災対策を推進します。 ○津波発生時の避難に対応するため、津波浸水予想区域の外周部への緊急避難場所となるオープンスペースを計画的に確保するとともに、鎌倉広町緑地への避難ルートを設定します。 ○海岸線から丘陵にかけて連担する市街地を分節し、火災の延焼防止や防風・防潮などの機能を果たす樹林地や公共施設の緑を保全・創出します。
環境負荷を和らげる緑	○丘陵の緑を保全するとともに、市街地の緑との連続性を高めます。 ○二酸化炭素の固定・吸収や気温調節機能の向上につながる緑の維持管理を行います。
生き物を育む緑	○手広・笛田の樹林地-鎌倉山住宅地の緑-鎌倉広町緑地に続く丘陵の緑を、流域生態系の骨格をなす緑として保全し、生物多様性保全に配慮した管理を進めます。 ○丘陵・谷戸の豊かな自然環境を有する鎌倉広町緑地を、流域生態系の核をなす緑として保全・活用するとともに、住民の自然観察の場、自然とのふれあい活動の拠点としての機能の充実を図ります。 ○手広の樹林地や水辺環境を保全します。 ○神戸川・二又川水系の河川環境の改善、沿川の樹林地の保全や緑の創出などにより、河川の持つ生物の生息生育地としての機能を高め、丘陵の緑-河川-海をつなぐ生態系ネットワークの形成を図ります。 ○小動岬、腰越海浜の自然環境を保全し、海岸線の生物多様性機能を維持します。
交流とふれあいを広げる緑	○鎌倉広町緑地の豊かな自然環境を活かした、自然とのふれあい活動の拠点・自然観察の場としての機能の充実を図ります。 ○手広・笛田の樹林地の一部を、身近な自然とのふれあいの場として活用を図ります。 ○海岸線-鎌倉広町緑地-夫婦池公園-笛田公園-笛田・手広の樹林地と続く緑の資源を活用した、歩行ルートのネットワーク形成を図ります。 ○(仮称)腰越2号緑地を都市緑地として整備するほか、市街地内の身近な公園について、住民の年齢構成の変化などに応じた機能の見直しを行い、利用しやすい公園づくりを進めます。
美しい景観をつくる緑	○小動岬、東浜海浜、高台の社寺の緑一帯の風景を、漁港の歴史を伝える緑の景観資源として保全します。 ○市街地に残る樹林地の保全や主要道路の沿道緑化、公共施設の緑などにより、市街地の緑の連続性を高めます。 ○重要な景観資源である。鎌倉山の桜並木を保全・管理します。
暮らしを支え豊かにする緑	○鎌倉山住宅地の閑静な居住環境を形成する緑を保全します。 ○丘陵住宅地については、住宅の植栽地の適切な育成管理を誘導し、緑豊かな居住環境の形成を誘導します。



図 6-7 緑の環境づくり方針図

(3) 主な取組の区分

区分	項目
行政が主体となる取組	<ul style="list-style-type: none"> ○道路・公共施設の緑化、河川環境の整備 ○手広・笛田等の市街地内樹林地の保全と活用 ○風致地区の指定継続による良好な居住環境の維持 ○鎌倉広町緑地の整備・機能の充実
市民等との連携による取組	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の発生防止や生物多様性保全に配慮した樹林地の維持管理 ○身近な公園、街路樹の維持管理 ○住宅植栽地の緑の育成・管理 ○歩行ネットワークのルート設定 ○社寺林の保全 ○小動岬の自然環境の保全

4) 柏尾川左岸下流域

(1)流域の特性

- 常盤山を中心に台峯・鎌倉山の2つの方向にのびる丘陵地と、その先端部に開けた台地、柏尾川沿いの低地で構成される流域です。
- 藤沢市との市境を流れる柏尾川を軸とする流域で、その支流である殿入川、梶原川などの小河川が丘陵・台地を縦断して柏尾川に注いでいます。
- 本市の新しい顔となる深沢地域国鉄跡地周辺拠点が形成される流域であり、低地面を中心に都市機能の集積が見込まれています。
- 柏尾川沿いの低地面は、広い範囲が洪水時の浸水予想区域に含まれている他、地震発生時にゆれやすいエリアとなっています。



深沢地域国鉄跡地周辺拠点一帯



鎌倉中央公園、山崎・台峯緑地

(2)緑の現状

- 歴史的風土特別保存地区の常盤山を中心に、手広・笛田－鎌倉山－常盤山-台峯の緑地がつながって、流域における緑の骨格を形成しています。
- 台地面の住宅地では、樹林地を持つ都市公園や教育施設の植栽地、小規模な斜面樹林地などが存在し、住宅の植栽地も加わって緑の豊かさを感じられる居住環境が形成されています。
- 低地と台地の境目には、豊かな動植物の生息生育環境を有する手広・笛田、等覚寺、寺分一丁目、上町屋、天神山等の樹林地が断続的に残されています。
- 水系軸である柏尾川沿いは道路・工場・住宅が連続しており、生態系の軸としての機能の低下が見られます。また、支流をなす殿入川、笛田川、新川、梶原川等の小河川についても、都市化の進行等により存在がわかりにくくなっています。
- 柏尾川沿いの工場が立地する地区では、緑の乏しい状況が見られます。
- 笛田地区や上町屋地区には、比較的まとまりのある生産緑地が存在しています。
- 流域内には、夫婦池公園やスポーツ活動の拠点である笛田公園が整備されている他、深沢地域国鉄跡地周辺拠点では、新たなまちづくりに伴う公園の整備が予定されています。

近隣公園である笛田一丁目公園



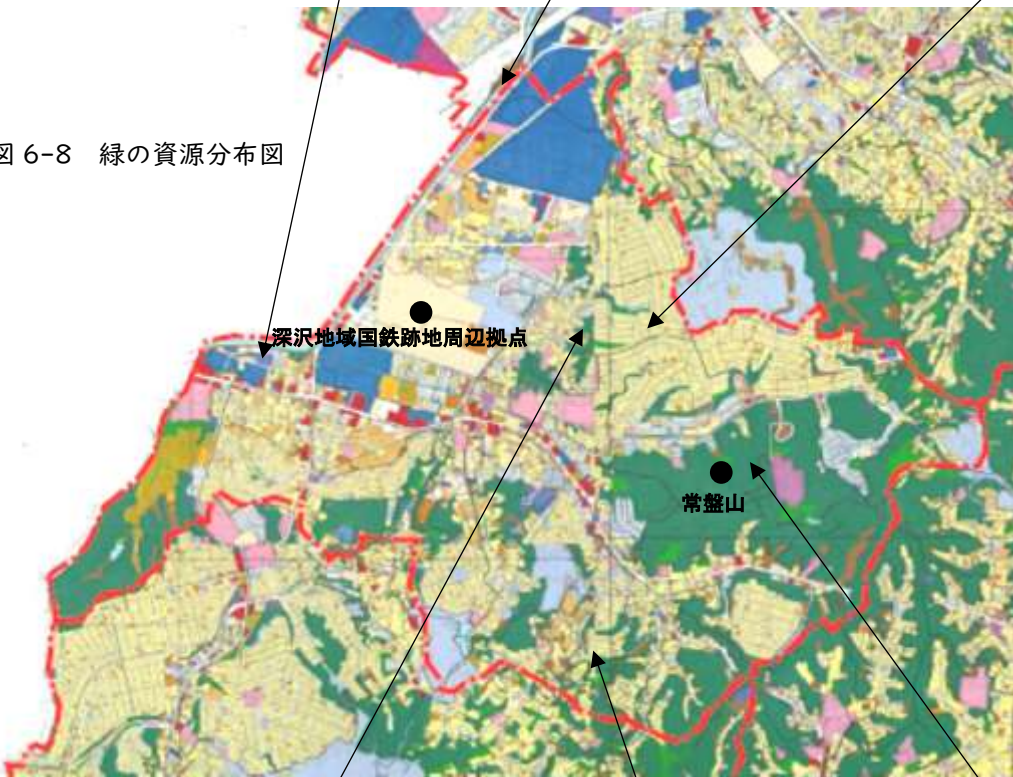
低地面に立地する工場の植栽地



台地面に広がる住宅地の緑



図 6-8 緑の資源分布図



- 農地 (田)
- 農地 (畑)
- 耕作放棄地
- 山林 (平地山林)
- 山林 (傾斜地山林)
- 河川、水面、水路
- 荒地、海浜、河川敷
- 住宅用地
- 集合住宅用地
- 併用住宅用地 (店舗併用)
- 併用住宅用地 (作業所併用)
- 併用集合住宅用地
- 業務施設用地
- 商業用地
- 宿泊観光施設用地
- 重化学工業用地
- 軽工業用地
- 運輸施設用地
- 公共用地
- 供給処理施設用地
- 文教・厚生用地
- 公共空地
- 民間空地
- その他の空地
- 訪客用地
- 道路用地
- 鉄道用地
- 農業集用地
- 小ゾーン界



豊かな自然環境を残す市街地内の樹林地(寺分一丁目特別緑地保全地区)



市民に親しまれる鎌倉山の桜並木



常盤山特別緑地保全地区の樹林地

(2)方針と取組

■方針

新都市拠点の整備に合わせて、隣接する工業地を含めた市街地の魅力と安全性を高める緑を創出し、丘陵の自然と市街地の緑との連続性や関連性が感じられる流域環境の形成を目指します。

■計画推進に向けた取組

項目	方針
歴史文化を守る緑	<ul style="list-style-type: none"> ○桔梗山から常盤山にかけての歴史的風土保存区域を構成する緑地を保全します。 ○史跡分布地である常盤山一帯の緑や中世の遺構を残す天神山の緑、その周辺に残る埋蔵文化財包蔵地内の樹林地を保全します。 ○北条氏常盤亭跡を、歴史文化とのふれあいの場として活用します。 ○流域内に分布する社寺林等を、古都の歴史文化をつなぐ緑として保全します。
安全安心をもたらす緑	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地を取り巻く丘陵の緑を、災害時の延焼防止機能有する緑として保全します。 ○県道や都市計画道路での街路樹整備や沿道の緑化により、延焼防止等の機能を有する市街地の緑を創出します。 ○土砂災害警戒区域等の指定区域やその周辺部の斜面樹林地について、防災面に配慮した適正管理を行うとともに、必要に応じて危険木の除去、間伐等の防災対策を推進します。 ○洪水時の浸水が予測されている湘南深沢駅一帯の低地面の市街地に対しては、グリーンインフラの視点を取り入れた雨水貯留機能を有する公園づくりや、道路・公共施設等の緑化による透水面の拡大などを行って、防災・減災機能を高めます。 ○工業地の既設工場や新たに立地する工場に対して、安心安全につながる緑化を誘導します。
環境負荷を和らげる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○丘陵の緑を保全するとともに、市街地の緑との連続性を高めます。 ○二酸化炭素の固定・吸収や気温調節機能の向上につながる緑の維持管理を行います。
生き物を育む緑	<ul style="list-style-type: none"> ○手広-笛田-常盤山-桔梗山-台峯-天神山に続く緑地を保全するとともに、これらをつなぐ鎌倉山・梶原・山崎の豊かな住宅地の緑を保全し、流域生態系の骨格をなす丘陵の緑を確保します。 ○市街地に残る常盤山、手広・笛田、等覚寺、寺分一丁目、昌清院、上町屋、天神山の樹林地を、丘陵の自然と市街地の緑をつなぐ生態系ネットワークの拠点をなす緑として保全します。 ○深沢地域国鉄跡地周辺拠点での新しいまちづくりに合わせて、生物多様性保全につながる柏尾川沿いの環境整備や緑化等を図ります。 ○柏尾川につながる殿入川、笛田川等の水流を生み出す、湧水域の自然環境を保全します。 ○谷戸の自然環境を残す鎌倉中央公園を、身近な自然観察の場として活用します。 ○夫婦池公園の水辺環境を保全します。
交流とふれあいを広げる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉中央公園について、施設の充実などにより、レクリエーション活動の拠点としての機能の充実を図ります。 ○手広の樹林地や野村総研跡地等の一部についても、自然とのふれあい活動などが楽しめる場としての活用を検討します。 ○河川沿いや既設道路等を活用し、鎌倉中央公園-常盤山-笛田公園-手広の樹林地等の資源を活かした歩行ルートを設定し、レクリエーション活動の場のネットワーク形成を図ります。 ○深沢地域国鉄跡地周辺拠点に対して、まちの魅力を高める公園を整備するとともに、大船駅一帯の商業地ともつながる、楽しく歩ける歩行ルートを検討します。 ○深沢地域国鉄跡地周辺拠点のまちづくりに合わせて、鎌倉中央公園と結ぶ歩行ルートを検討します。 ○丘陵住宅地では、住民の年齢構成の変化などに対応した、利用しやすい公園づくりに取り組めます。

項目	方針
美しい景観をつくる緑	<p>○深沢地域国鉄跡地周辺拠点の形成に合わせて、新しいまちのシンボルとなる道路・河川を活かした緑の景観軸の形成を図ります。</p> <p>○拠点地区の背景をなす、山並みの緑の連続性を確保します。</p> <p>○まとまりのある農の風景を保全します。</p>
暮らしを支え豊かにする緑	<p>○住宅地に残る身近な樹林地の保全や、住宅の緑化誘導、学校緑化等により、生活空間の身近な緑の増大を図ります。</p>

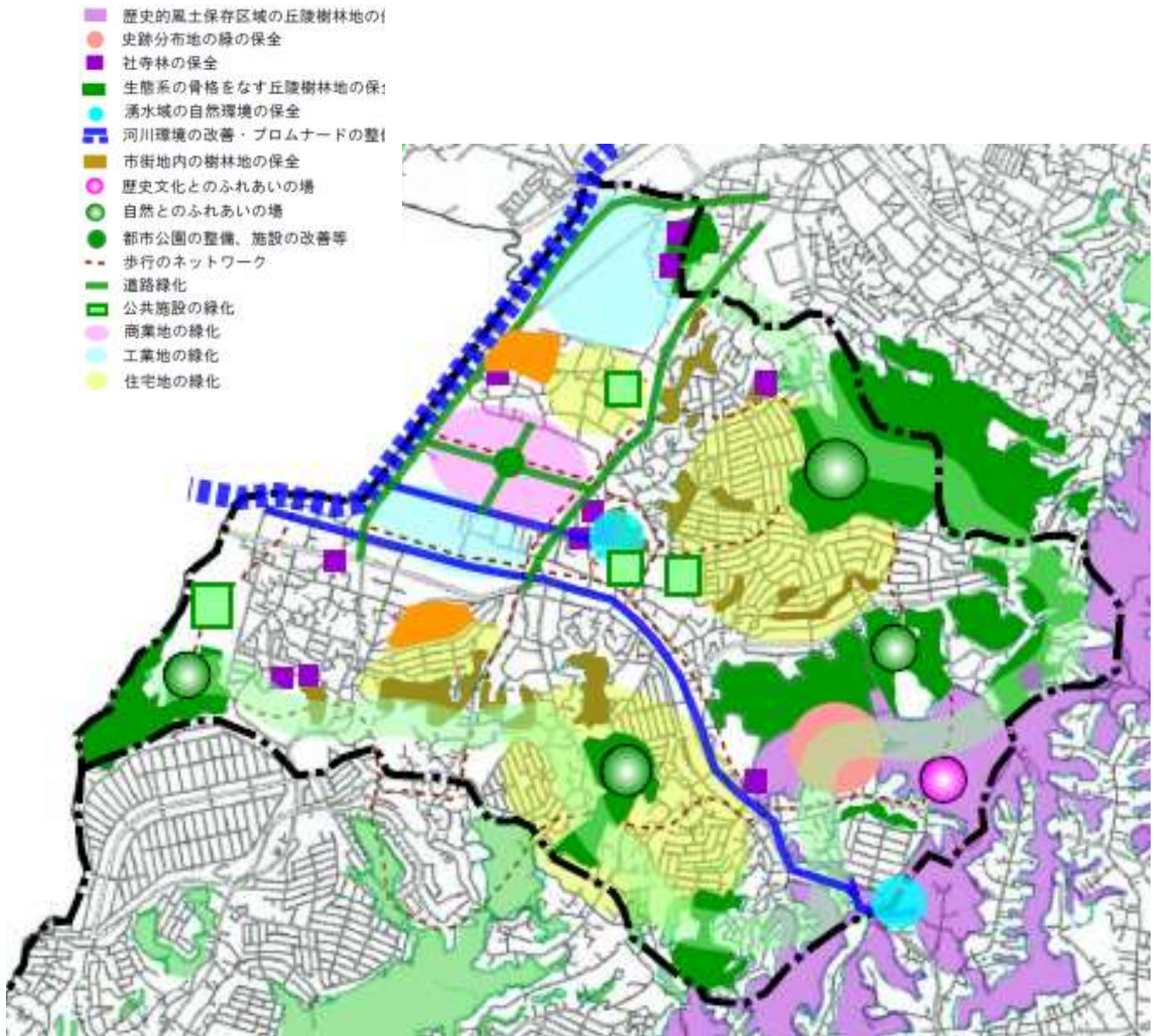


図 6-9 緑の環境づくり方針図

(3)主な取組の区分

区分	項目
行政が主体となる取組	<ul style="list-style-type: none">○歴史的風土保存区域・特別保存地区の指定、継続による緑地の保全○史跡等分布地の緑の保全と、北条氏常盤亭跡の歴史文化とのふれあいの場としての活用○特別緑地保全地区の指定継続による市街地内樹林地の保全○深沢地域国鉄跡地周辺拠点での、新しいまちづくりに合わせた公園整備と市街地の緑化○鎌倉中央公園の機能の充実、手広・笛田の緑や野村総研跡地等の活用方針の設定○道路・公共施設の緑化、河川環境の整備○工場集積地の緑化誘導
市民等との連携による取組	<ul style="list-style-type: none">○災害の発生防止や生物多様性保全に配慮した緑地の維持管理○深沢地域国鉄跡地周辺拠点での緑のまちづくり、丘陵住宅地の緑化推進○公園、街路樹、河川の維持管理○まち並みの緑を豊かにする商業施設や住宅の緑化、植栽地の維持・管理○歩行ネットワークのルート設定○生産緑地地区の保全と活用

5) 柏尾川左岸上流域

(1)流域の特性

- 大平山から今泉・岩瀬、六国見山、台峯の3つの方面にのびる丘陵とその先端部の台地、柏尾川沿いの低地からなる、柏尾川に注ぐ砂押川・小袋谷川の2つの水系を軸とする流域です。
- 歴史的風土保存区域や近郊緑地保全区域の指定を受ける丘陵樹林地、丘陵の大規模住宅地、大船駅一帯の商業・工業地、その後背地に広がる住宅地で構成されます。
- 丘陵一帯は、土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域の指定区域となっています。また、柏尾川沿いの低地面は、広い範囲が洪水時の浸水予想区域に含まれている他、地震発生時にゆれやすいエリアとなっています。
- 大船駅一帯は、市の都市拠点としての機能集積が進んでいます。
- 歴史的風土保存区域に含まれる北鎌倉駅一帯は、鎌倉五山の寺院が立地し多くの史跡が分布する地区で、古都の玄関口として、多くの観光客が訪れています。



大船駅一帯の市街地



岩瀬の谷戸沿いの市街地

(2)緑の現状

- 3つの尾根沿いにのびる緑地が市街地を取り巻き、流域における緑の骨格を形成しています。今泉・岩瀬の斜面樹林地は、隣接地する横浜市側の樹林地と一体となって、市街地の連担を防ぐ役割を果たしています。
- 砂押川・小袋谷川の2つの河川のうち、小袋谷川は周囲の市街化によって存在がわかりにくくなっており、流域生態系の軸としての機能が失われつつあります。
- 砂押川上流域の住宅地では、生育した住宅の植栽地等と周囲の丘陵山林が、緑豊かな居住環境をつくり出しています。
- 大船駅を中心とする商業・工業地や外縁部に広がる住宅地では、一部に公園・小規模な斜面樹林・公共施設や工場の植栽地等が見られるものの、全体として緑の少ない市街地環境が形成されています。
- 流域内の主要なレクリエーション活動の場として、豊かな自然を残す鎌倉中央公園・六国見山森林公園・散在ガ池森林公園や、流域住民の災害時の避難場所となる岩瀬下関防災公園が整備されています。

大船駅一帯の緑の少ない市街地



流域生態系の軸をなす砂押川



市街地を包み込む岩瀬の斜面樹林地

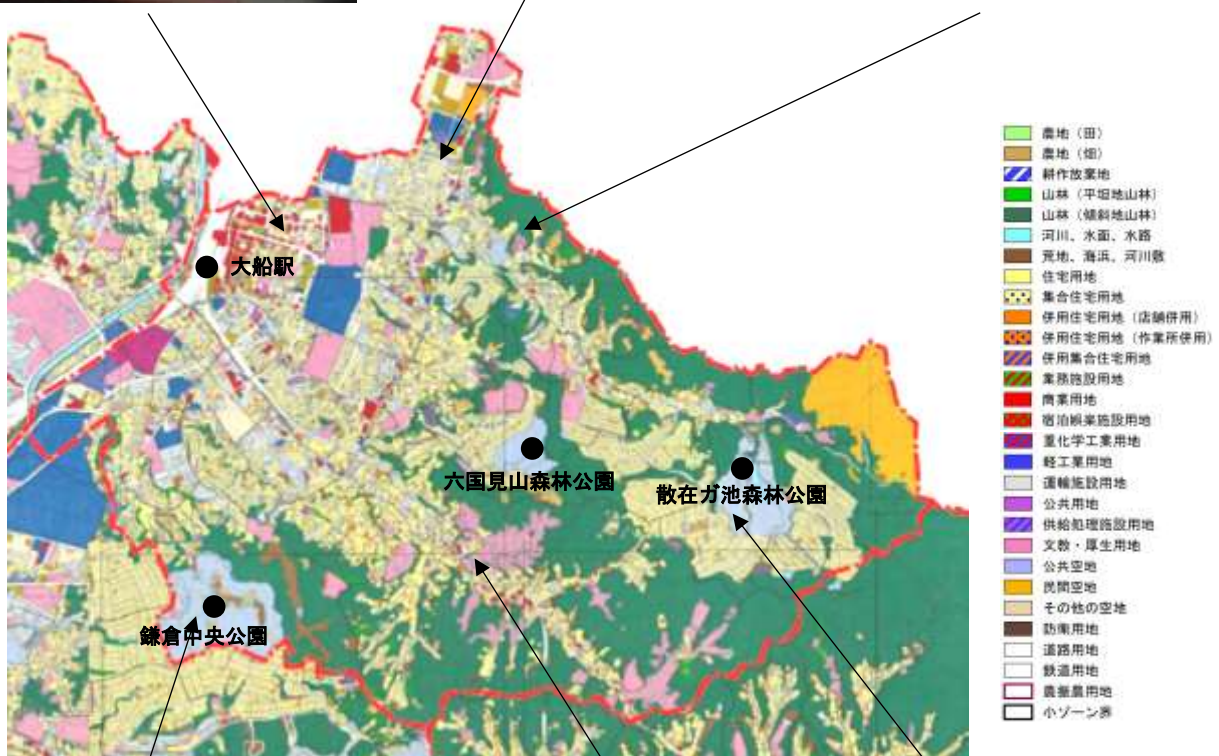


図 6-10 緑の資源分布図



緑に係る講座が多数開催される
鎌倉中央公園



鎌倉五山の一つ円覚寺の社寺林



豊かな自然を持つ散在ガ池森林公園

(2)方針と取組

■方針

まちの緑を増やし、丘陵の自然とまちの緑がつながって、防災・生物多様性保全・交流活動・環境負荷低減などに効果を発揮する緑のネットワーク形成を目指します。

■計画推進に向けた取組

項目	方針
歴史文化を守る緑	<ul style="list-style-type: none"> ○扇ガ谷-巨福山-山ノ内にかけての、歴史的風土保存区域を構成する緑地を保全します。 ○円覚寺・建長寺・浄智寺等の社寺やその一帯の史跡分布地の緑、中世の遺構が残る今泉の緑を保全します。 ○歴史的風土保存区域から大船市街地にかけて分布する社寺林やその背後の斜面樹林地を、古都の歴史文化をつなぐ緑として保全します。
安全安心をもたらす緑	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地内に残る社寺林や斜面樹林地を、火災の延焼防止機能を有する緑として保全します。 ○土砂災害警戒区域等の指定を受ける丘陵樹林地や市街地内に残る斜面樹林地について、防災面に配慮した適正管理を行うとともに、必要に応じて危険木の除去、間伐等の防災対策を推進します。 ○洪水時の浸水が予測されている大船駅一帯の低地面の市街地に対しては、グリーンインフラの視点を取り入れた雨水貯留機能を有する公園づくりや、道路・公共施設等の緑化による透水面の拡大などを行って、防災・減災機能を高めます。
環境負荷を和らげる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○丘陵の緑を保全するとともに、市街地の緑との連続性を高めます。 ○二酸化炭素の固定・吸収や気温調節機能の向上につながる緑の維持管理を行います。
生き物を育む緑	<ul style="list-style-type: none"> ○流域の市街地を取り巻く、台峯-金宝山-巨福山-今泉にかけてのびる緑地を、流域生態系の骨格をなす緑として保全します。 ○流域生態系の回廊となる砂押川水系の河川環境を維持するとともに、その水源域である散在ガ池一帯の自然環境を保全します。 ○小袋谷川・山崎川などの水系についても、可能な場所での沿川の緑化などにより生態系の軸としての機能を高めます。
交流とふれあいを広げる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○流域に位置する鎌倉中央公園、六国見山森林公園、散在ガ池森林公園を自然とのふれあい拠点として位置づけ、その機能を高めます。 ○3つの拠点公園や既設のハイキングコース、河川沿いの歩道等を活用し、住民が流域内を周遊できる歩行ルートのネットワーク形成を図ります。 ○市街地の身近な公園について、施設の見直しや再編整備、児童遊園等の活用等を図り、身近に公園利用が楽しめる環境を整えます。 ○深沢地域国鉄跡地周辺拠点ともつながる、楽しく歩ける歩行ルートを検討します。
美しい景観をつくる緑	<ul style="list-style-type: none"> ○砂押川プロムナードに加え、大船駅と鎌倉芸術館を結ぶ花と緑のシンボルロードの形成、柏尾川沿いのプロムナードの形成、都市計画道路の街路樹設置や沿道の緑化等を図り、市街地における緑の連続性を高めます。 ○今後の土地利用の動向や商業ビルの建設等に合わせて、商業地での都市広場や眺望ポイントともなる屋上庭園等を誘致し、都市拠点の魅力を高める緑の創出を図ります。 ○北鎌倉駅一帯は、歴史的風土特別保存地区に囲まれた場所として、景観地区にふさわしい、緑と調和したまち並み形成を図ります。 ○道路緑化や公共施設の緑化を図り、市街地内で景観資源となる緑を増やします。

項目	方針
暮らしを支え豊かにする緑	<p>○今泉・岩瀬にかけての市街地については、周囲の自然環境と調和した緑豊かな居住環境や、落ち着いた谷戸の低層住宅地の環境を維持します。</p> <p>○商業地の外縁部に形成された市街地では、残された小規模な樹林地や社寺林の保全、公共施設の緑化、住宅の接道部の緑化などにより、まち並みの緑の連続性を高め、身近な緑の増大を図ります。</p> <p>○丘陵住宅地では、緑化や植栽樹木の育成を誘導し、風致地区の居住環境を維持します。</p>



図 6-11 緑の環境づくり方針図

- | | |
|----------------------|------------------|
| ■ 歴史的風土保存区域の丘陵樹林地の保全 | ● 自然とのふれあいの場 |
| ● 史跡分布地の緑の保全 | ● 都市公園の整備、施設の改善等 |
| ■ 社寺林の保全 | - - 歩行のネットワーク |
| ■ 生態系の骨格をなす丘陵樹林地の保全 | ■ 道路緑化 |
| ● 湧水域の自然環境の保全 | ■ 公共施設の緑化 |
| ■ 河川環境の改善・プロムナードの整備 | ■ 商業地の緑化 |
| ■ 市街地内の樹林地の保全 | ■ 工業地の緑化 |
| ● 歴史文化とのふれあいの場 | ■ 住宅地の緑化 |

(3) 主な取組の区分

区分	項目
行政が主体となる取組	<ul style="list-style-type: none">○歴史的風土保存区域・特別保存地区、近郊緑地保全地区の指定、継続による緑地の保全○史跡等分布地の緑の保全○道路・公共施設の緑化、河川環境の整備○特別緑地保全地区の指定継続による市街地内樹林地の保全○鎌倉中央公園、六国見山森林公園、散在ガ池森林公園等の機能の充実、○柏尾川の環境整備
市民等との連携による取組	<ul style="list-style-type: none">○災害の発生防止や生物多様性保全に配慮した緑地の維持管理○大船駅周辺拠点での緑のまちづくり、丘陵住宅地の緑化推進○公園、街路樹、河川の維持管理○まち並みの緑を豊かにする商業施設や住宅の緑化、植栽地の維持・管理○歩行ルートのネットワーク形成

6) 柏尾川右岸流域

(1)流域の特性

○柏尾川沿いの低地と玉縄丘陵で構成される流域です。

○小田原北条氏の玉縄城が築かれた土地であり、多くの社寺が見られる他、丘陵の大部分が埋蔵文化財包蔵地となっています。

○宅地化の進行によって市街地が拡大し、樹林地と住宅地が混在する市街地環境が形成されています。

○関谷地区は市域で唯一の農業振興地域であり、農用地区域の指定を受ける農地が広がっています。

○コンパクトな市街地に4つの公立小中学校、2つの私立中高等学校、県立養護学校が立地しています。



玉縄市街地

(2)緑の現状

○宅地開発によって分断された樹林地がモザイク状に残り、市街地を分節しています。

○流域中央部の玉縄城跡一帯は、公立・私立の複数の教育施設と社寺林、斜面樹林地がまとまって存在する、緑豊かな学園エリアが形成されています。

○大船駅の西側に位置する観音山の樹林地を初めとして、多くの社寺林が分布しています。

○レクリエーション施設として、柏尾川沿いに神奈川県立大船フラワーセンターが立地する他、住宅開発に伴う街区公園が数多く整備されています。

○市街地に分布する樹林のうち、特別緑地保全地区の指定を受ける岡本・玉縄城址・城廻の樹林地では、過去の自然環境調査動植物調査で多様な動植物の生息生育が確認されており、生態系ネットワーク形成上も重要性の高い緑となっています。

○柏尾川沿いは道路や建物が連続する状況が見られますが、河川沿いに残る岡本・観音山の斜面樹林地が景観上のランドマーク、生態系ネットワークの核としての役割を果たしています。

○流域の一部に谷戸の自然環境が残されています。

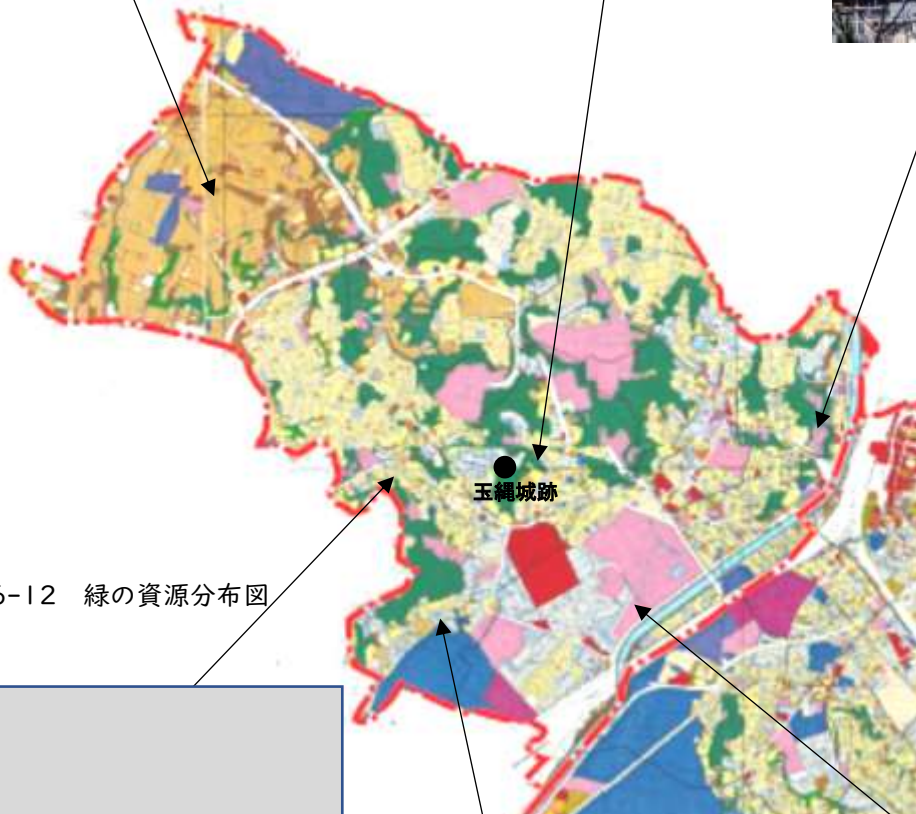
農用地区域に広がる農地



玉縄城址特別緑地保全地区の樹林



シンボル景観である大船観音と境内の緑



- 農地(田)
- 農地(畑)
- 耕作放棄地
- 山林(平地山林)
- 山林(傾斜地山林)
- 河川、水面、水路
- 荒地、海浜、河川敷
- 住宅用地
- 集合住宅用地
- 併用住宅用地(店舗併用)
- 併用住宅用地(作業併用)
- 併用集合住宅用地
- 業務施設用地
- 商業用地
- 宿泊娯楽施設用地
- 重化学工業用地
- 軽工業用地
- 運輸施設用地
- 公共用地
- 供給施設用地
- 文教・厚生用地
- 公共空地
- 民間空地
- その他の空地
- 訪集用地
- 道路用地
- 鉄道用地
- 農業用地
- 小ゾーン界

図 6-12 緑の資源分布図



市街地内の身近な公園



愛護会が清掃活動を行う市民緑地の広場



神奈川県立大船フラワーセンター

(2)方針と取組

■方針

歴史のまちを印象づける緑の拠点形成を図ります。また、農地の保全・活用を図り、樹林地・農地・住宅の緑が緩やかに結びついて、防災・生物多様性保全・景観形成などに効果を発揮する緑のネットワーク形成を目指します。

■計画推進に向けた取組

項目	方針
歴史文化を守る緑	○中世の遺構を伝える玉縄城跡一帯の社寺林及び樹林地を、地域の歴史文化を伝える緑として保全します。
安全安心をもたらす緑	○建物に接する斜面樹林地について、防災面に配慮した適正管理を行うとともに、必要に応じて危険木の除去、間伐等の防災対策を推進します。 ○洪水時の浸水が予測されている柏尾川沿いの低地面の市街地に対しては、グリーンインフラの視点を取り入れた緑化による透水面の拡大などを行って、減災機能を高めます。
環境負荷を和らげる緑	○丘陵の緑を保全するとともに、市街地の緑との連続性を高めます。 ○二酸化炭素の固定・吸収や気温調節機能の向上につながる緑の維持管理を行います。
生き物を育む緑	○多様な動植物の生息生育が見られる岡本・玉縄城跡・城廻の自然環境を保全するとともに、市街地に残るその他の樹林地についても保全を図り、農用地区域のまとまりのある農地と合わせて、流域における生態系ネットワークの形成を図ります。 ○石原地区に残る谷戸の自然環境を保全し、身近な自然殿ふれあいの場として活用を図ります。 ○今後の土地利用の動向などに合わせて、生物多様性保全につながる柏尾川沿いの環境整備や緑化等を図ります。
交流とふれあいを広げる緑	○市街地の身近な公園について、施設の改善や機能の見直しを図り、住民のニーズに沿った公園づくりを進めます。 ○農地の一部に対して、農とのふれあいの場としての活用を検討します。 ○大船駅一帯の今後の土地利用動向に合わせて、大船駅-大船観音-フラワーセンター-玉縄城跡を結ぶ歩行ネットワークの形成を図ります
美しい景観をつくる緑	○玉縄城跡一帯の教育施設と樹林地がまとまって存在するエリアに対して、教育施設を含む一体的な緑地の保全と緑化の推進、緑の管理を進め、歴史的景観拠点の形成を図ります。 ○まとまりのある農地を、流域を特色づける景観資源として保全します。
暮らしを支え豊かにする緑	○市街地の樹林地を、暮らしの身近な自然として保全します。 ○教育施設の緑化や住宅地の緑化を誘導し、市街地の緑の増大と連続性の向上を図ります。

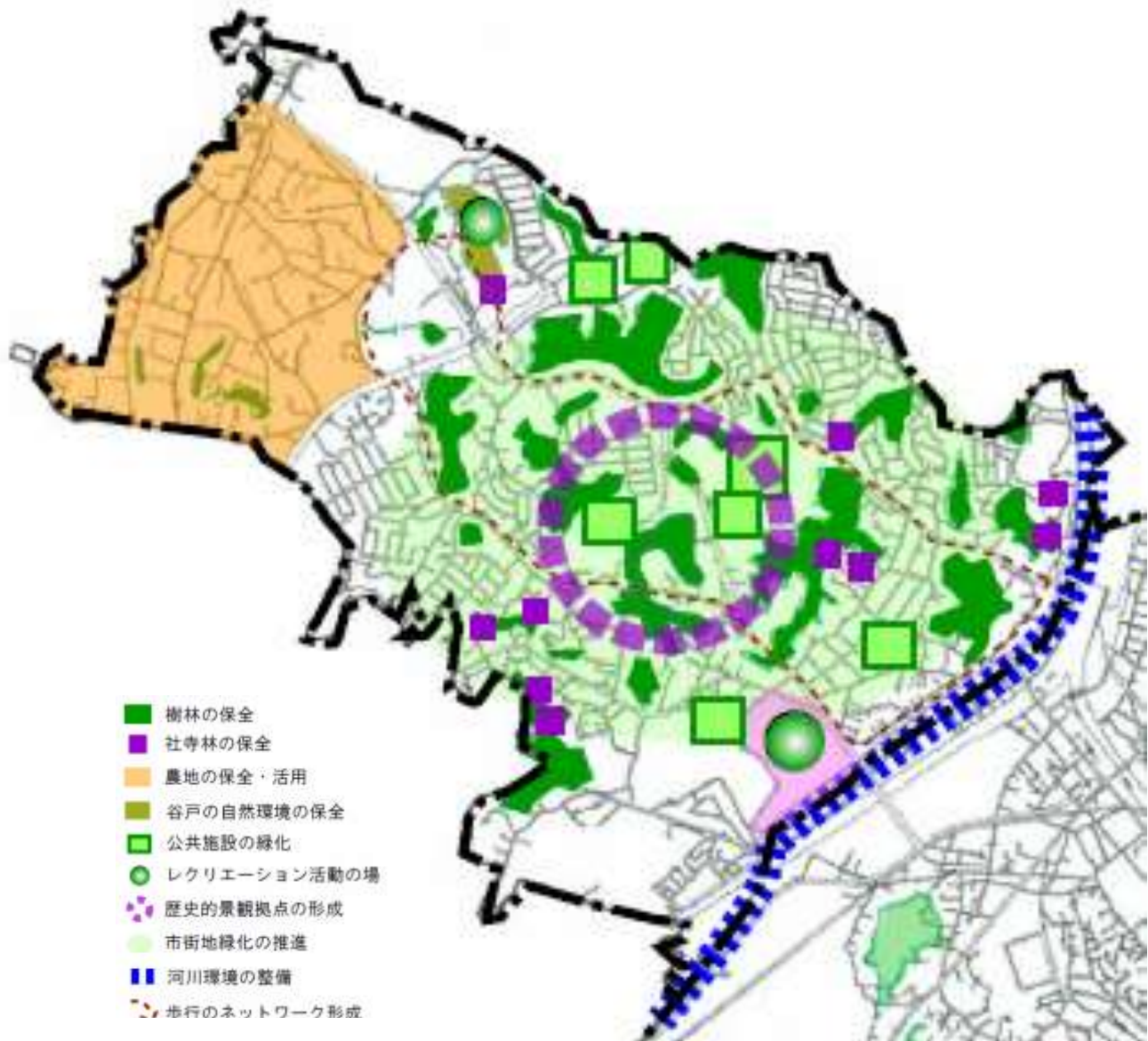


図 6-13 緑の環境づくり方針図

(3) 主な取組の区分

区分	項目
行政が主体となる取組	<ul style="list-style-type: none"> ○特別緑地保全地区の指定及び指定拡大等による、市街地内樹林地の保全 ○農用地区域の農地の保全 ○道路・公共施設の緑化、河川環境の整備 ○石原谷戸の自然とのふれあいの場としての活用 ○柏尾川の環境整備
市民等との連携による取組	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の発生防止や生物多様性保全に配慮した緑地の維持管理 ○玉縄城跡を中心とする歴史と緑の拠点形成 ○公園、街路樹、河川の維持管理 ○農地の活用

○歩行ネットワークのルート設定
